

日刊 労働千葉

86. 1. 25

No. 2148

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

怒は爆発心 1 2 3 労働千葉 2 2 業務移管 親見 総決起 2 波

労働千葉は一月二三日、第六回支部代表者会議を開催し、来週早々にも強行されんとする前代未聞の不当処分に対して全組合員が文字通り怒りの火の玉と化し総反撃に打って出る事を確認すると共に、業務移管・検修合理化を中心とする「61・3ダイ改」阻止の第二波闘争―第一波をも上まわる怒りの第二波ストライキ貫徹へむけた「当面する取り組み」について次の通り確認した。

闘いの全国化へ大きく展望 ひらく2〜3月「第二波」

闘いは、いよいよ最大の正念場を迎えた。二月下旬からの国鉄関連法案国会審議―「61・3ダイ改」の強行を突破口に、一気に「61・11」―「62・4・1」へと突き進もうとする政府・当局は、労働千葉が第一波ストで切り拓いた地平―「分割・民営化」をめぐる世論の沸とう、国鉄労働者の活性化を何としても封じこめ何よりも最重要期の二〜三月の第二波闘争を圧殺するために、「労使共同宣言」（一月十三日）、千葉から東京への「業務移管」を含む「ダイ改」提案（一月十四日）そして、これと連動させての史上空前のデタラメ大量重処分策動と、あせりに満ちた凶暴な攻撃を開始している。しかし、こうした攻撃は、逆に国鉄労働者の怒りをかきたて、闘いへの決起を突きつけるものとなっている。

とりわけ、「61・3」の最大の焦点とも言える「業務移管」をめぐる闘いは、労働千葉の第一波ストに触発された生産点の活性化にもつき動かされ、国労千葉地本、東京地本も「国労への組織分断・破壊攻撃」として線見阻止方針を打ち出すなど、闘いの展望が大きく切り拓かれつつある。

いずれにせよ、労働千葉のいかなる不当処分も恐れぬ怒りの決起 第二波ストの爆発が、敵を追いつめ、国鉄労働者の決起をさらに勇気づけ、勝利を切り拓く一切のカギとなっていることを見さえ、来週から総力で闘いに突入しよう。

当面する取り組みについて

1. 闘いの目標

- ① 不当処分粉碎
- ② 業務移管攻撃粉碎
- ③ 検修合理化阻止・運転保安確立
- ④ 国鉄関連法案上程粉碎
- ⑤ 国鉄「分割・民営化」―十万人首切り合理化阻止にむけた「三月ダイ改」粉碎

2. 第二波闘争の基本的構想

- ① 不当処分粉碎闘争
- ② 二月四日以降線見阻止闘争
- ③ 二月〜三月三日「国鉄関連法案国会上程阻止」3・3ダイ改阻止 闘争団体交渉、国会情勢、当局の動向をみすえつつ、節々で非協力・順法闘争、指名スト、ストライキを配置して闘う。

3. 不当処分通告に対する闘い

- ① 通告書の受け取り拒否
- ② 当該支部は直ちに職場集会 全支部で区長抗議行動
- ③ 翌日より全組合員対象の長期・強靱な非協力・順法闘争に突入
- ④ ワッペン着用闘争等
- ⑤ 不当処分粉碎総決起集会

△一月二九日（水）十八時〜
△千葉市民会館小ホール↓終了後局 抗議デモ

4. 不当処分粉碎、業務移管・線見阻止 検修合理化粉碎、第二波闘争勝利、労働千葉総決起集会 △最大限動員

△二月二日（日）十三時〜 デモ
△千葉市・葦川公園↓集会後、局抗議

5. 線見阻止闘争

二月四日以降、全支部からの動員をもつて、全力で線見阻止闘争を展開し、山場には第二波ストライキを敢行する。